

今年の麻疹流行について

今春関東地方から始まった麻疹流行は、予想どおり全国に拡大し、検査試薬の不足やワクチンの不足もあって大変な混乱を引き起こした。

4月28日の庶務担当理事連絡協議会では、関東での流行の状況、創価大学での対応、感染症情報センターへの麻疹登録方法、保育所幼稚園での対応マニュアル、医療機関での対応マニュアルの紹介をしたが、さほど差し迫った状況ではなかった。5月に入り、京都府内でも麻疹患者が出ていたが、残念ながら麻疹は感染症法上は成人・小児とも定点報告で、全数の把握ができず、流行の規模の把握は困難であった。今回の流行は高校生・大学生を中心に成人に多く、特にマスコミには大学での流行が大きく取り上げられた。関東の大学では抗体検査・ワクチン接種が大学単位で実施されたが、京都府内で実施しようとしたときにはすでに検査試薬がなく、採血はしたものの結果がわかるまでに1ヶ月以上も要するという状況で、またたく間に麻疹単独ワクチンのみならずMRワクチンまで入手困難になった。京都府・京都市とも対策を協議し、5月25日からは医療機関の協力をいただいて、全数報告をお願いした。6月1日には京都府・京都市との共催で「京都府麻しん対策に係る大学保健センター等管理者研修会」を開催した。この席上、大学関係者からは検査が出来ず、ワクチン接種も出来ないために教育実習を延期せざるを得ない、何とかならないのかとの切実な意見も出されたが、MR1期(1歳児)のワクチンを最優先することについて説明し、理解、協力をお願いした。

感染症流行時には「冷静に」かつ「迅速に」一見、相反する対応が必要とされる。今回もこれまで麻疹患者を数多く診察してこられた医師からは「別に大騒ぎすることではない」との意見も聞かれたが、一方では「麻疹患者、1人発生したらすぐ対応」が原則で「しばらく様子を見よう」は禁物とされている。平時よりワクチン接種歴の確認、未接種者へのワクチン接種の勧奨を行い、患者発生時には接触者の把握・指導が「迅速に」「冷静に」行われなければならない。

麻疹排除の目標は2012年とされている。今回の流行について各方面でどのような対応がとられたか、問題点は何かを振り返り、今後の感染症流行時の対応に役立てたい。

(理事 辻 幸子)

麻疹発生報告(医療機関全数報告) 保健所別一覧 H.19.10末

	北	上京	中京	下京	南	左京	右京	西京	東山	山科	伏見	他	市内計	乙訓	山城北	山城南	南丹	中丹西	中丹東	丹後	他	市外計	合計
5月					1	6				1	2		10		7		3		1			11	21
6月			2			4	1	1			6	5	19		15	2	5		5	2		29	48
7月			1						1		2	1	5		12	3	2		2			19	24
8月						2				2	3	1	8	4	20			2				26	34
9月						1			7	2	2		12	1					10		3	14	26
10月													0	1								1	1
合計	0	0	3	0	1	13	1	1	8	5	15	7	54	6	54	5	10	2	18	2	3	100	154

麻疹発生報告（医療機関全数報告）年齢別一覧 H19.10末

	0～5	6～12	13～15	16～18	19～22	23～29	30～39	40～49	50～	不明	
5月		1		2	5	2	3		1	7	21
6月	7	5	8	6	3	2	4		2	11	48
7月	6	9			4	3	2				24
8月	11	7	5	1	2	4	3			1	34
9月	11	7	1	3			1			3	26
10月								1			1
合計	35	29	14	12	14	11	13	1	3	22	154